

日の折は非常な賑はひであると。
 五、巾辻観音 巾組地内に在つて弘化四年建立馬頭観音を祀る。
 河北の部

辻地藏 河北地内にあつて元禄八年の建立。附近の人の信仰厚く村祭の時獅子舞は妙智庵から必ず此處まで来て舞ふのを慣習として居る。又裏盆の日には附近の人々集りボチを作り供へ兒童に分け與へるとのことである。備考 古老の語る所によれば多くの辻地藏 辻弘法 辻観音なき辻々にあつたが明治維新の際多くは附近寺院の境内に集められたものである。
 又曰く下小口に酒井七兵衛なる人があり(酒井鉞郎の家) 附近は行者の信仰甚だ盛んで七兵衛はそのカギ元をしてゐたさうである。

第五節 墓地

埋葬字名	地	番	反	別	使用字名〔使用家名〕
大字豊田字其坪三五			二畝六歩		豊田秋田大屋敷傳染病死者

大	田	秋	田	豊
大字大屋敷字寺東七八	大字秋田字中山百二九 大字秋田字睦知野五九 大字秋田字西御前三六	大字秋田字宮浦七	大字豊田字南野原三二 大字豊田字二見三二 大字豊田字松下五七	大字豊田字差柳六八ノ二二 大字豊田字堀尾跡三六 大字豊田字南屋敷一二 大字豊田字善徳七四 大字豊田字松下五七 大字豊田字二見三二 大字豊田字南野原三二
三畝二十歩	三畝十九歩	九畝五歩 五畝十五歩 一反二畝十歩	二十歩	二反九歩 一反九畝一歩 五畝歩 二畝歩 四畝廿歩 二畝廿歩
新田丹羽安藤組墓地	替地墓地	長櫻八佐墓地 早雲墓地 傳右墓地	一統墓地(廢墓)	西奈良子墓地 御供所社本組墓地 御供所江口組墓地(白木墓地) 御供所土田家所有(廢墓) 御供所土田家墓地 小折新田墓地

坪	外	稲口	沖	仲	島	萩	屋
大字小口苗田島五六	大字外坪一七八五	大字小口寺田巽一九	大字小口字北穴田六五ノ一	大字河北字馬喰島一三六一	大字小口字清水七四	大字小口字高岡四二	大字河北宮東二〇一六
四畝九歩	六畝六歩	四畝十三歩	三畝廿二歩	六畝十七歩	三畝十五歩	三畝廿二歩	三畝廿二歩
北外坪全部	松山中本郷全部	稲口五家 以上は寺田も埋葬	榎田川瀬仲野	仲沖全部	萩島の南屋敷	萩島の北屋敷	二津屋

第十四章 名勝古跡

第一節 總 說

本村には名勝と名付ける程のものがない。其の理由は第一本村は單調なる平野の真只中に位して、山なく丘なく只見渡す限り田圃桑園に包まれてゐると言ふ地理的事情なのである。第二民情及産業にもよるのである。即ち當地は純農村で、猫額大の土地たりとも田圃桑園として利用せずには置かない、換言すれば、名勝として存するよりも、直ちに以て實利的に活用しようとするが故である。第三交通機關の不便な爲めである。村内の交通は主として道路に依つて、電車、バス等の便よろしくないからである。第四村の沿革上何等の由緒を認めないからである。第五天下の絶景、日本ラインを近くに控へてゐるが爲に、村内に名勝存在の必要がないためである。

この様な事情の本村から強いて名勝を求むるなら、一、豊田秋葉様、二、豊田、大乃瀬橋附近の螢、三、大屋敷長松寺の尾州開運護國三面大黒冥天、四、同長松寺限た、き弘法、五、上小口萬町橋附近の螢、なごを挙げ得るであらうか。

次に本村内の古跡に就いて見るに、數に於ては相當あるけれども、豊田の堀尾邸趾、中小口の小口城趾等一、二を除